

とうさんどう  
東山道

都と下野<sup>しもつけのくに</sup>国は、主要道路である東山道で結ばれていました。東山道には約16キロメートルごとに<sup>うまや</sup>駅家（宿場のようなもの）が設けられ、10ぴきの駅馬が備えられていました。東山道は、下野国の中心地である<sup>こくふ</sup>国府のすぐそばを通り、当然駅家もあったはずであると考えられています。

下野国から都までの旅行日数は、<sup>ぜい</sup>税を運んで都へのぼるのに、徒歩で34日、荷物を持たない帰り道でも徒歩で17日かかったそうです。しかし、馬を使える役人は、4、5日で東山道をかけぬけたそうです。

（「栃木市のあゆみ」栃木市教育委員会から）